令和５年度　第３回　九段中等教育学校　学校経営評議会　会議録

日　時　　令和６年３月６日（水）　　午後1時15分から14時45分
場　所　　九段中等教育学校　九段校舎　メモリアル室

内容
１　開会
２　校長挨拶
３　令和５年度　学校経営方針実現に向けた取組の最終報告
４　令和５年度　学校経営診断アンケートの結果について
５　その他
６　閉会

〇会長　それでは、ただいまから令和５年度第３回「学校経営評議会」を開催させていただきます。

本日は、お足元の悪い中、集まっていただいてありがとうございます。

コロナのパンデミックもほぼ薄らいできたというか影響が少なくなってきて、やっと日常が戻りつつあるということで、学校の行事等についても、いろいろ今まで大きな制限を受けたり影響を受けていたものが少しずつ緩和され、日常に戻っていくことと思います。

そういう中で、私どもの役割もまた重要なアイテムが増えてくるのではないかと思いますので、ぜひ皆さん、御協力をよろしくお願いいたします。

本日は、区の教育担当部長、それから、指導課長、指導主事１名の御欠席の連絡を受けておりますので、このメンバーでやらせていただきます。

それでは、よろしくお願いいたします。

まず、九段中等教育学校を代表いたしまして、校長先生から御挨拶を頂戴したいと思います。

〇校長　皆さん、こんにちは。

本日は非常に寒いところ、また、御多用のところ、御参加いただきましてありがとうございます。

今、会長からも話がありましたけれども、昨年の５月のゴールデンウィーク明けからコロナの規制緩和が解除されたということで、海外の研修旅行等も滞りなく実施できたというところです。

先日は卒業式、144名の卒業生を無事卒業させまして、また、御参加いただきまして本当にありがとうございます。

適性検査につきましては、倍率でいうと、Ａ区分、千代田区の区分は大体２倍程度です。それから、Ｂ区分のほうは５倍を超えたというところで、今回から東京都に先んじて男女枠なくということで、男女緩和の中での選考、では、男女の割合がどうなっているかとい

うことは、実際に入学してきてくれないことには分からない部分が実はあります。正式な数値というのはまた別途入学式を終えた後にはっきりするかなと思います。

また、来年度からは新たな教育開発プログラム、今、「九段自立プラン」というのをやっているのですけれども、それを発展させて探究型、今までの九段自立プランというのはどちらかというと課題研究型だったのですけれども、それが今度は探究型ということで、特に理数ですね。STEAMですけれども、それから、グローバル、そして、アントレプレナーを３つの柱として、新たなプログラムを進めていくということになっております。

本年度の評価、反省等をまた来年度に生かしていきたいと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

○会長　ありがとうございました。

次に、配付資料の確認について事務局からお願いいたします。

○経営企画室長　皆さん、こんにちは。

配付資料ですけれども、次第と資料１と２のみでございます。

ございますでしょうか。あるいは乱丁等がございましたら、こちらのほうで差し替えさせていただきます。よろしくお願いします。

○会長　ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に従って進めてまいります。

まず、３の「各分掌学校経営方針実現に向けた取組（最終報告）」ということで、まずは資料１について５分ほど時間を取らせていただいて、目を通していただいて、その後に両副校長のほうから御説明をいただきたいと思います。

数分間目を通してください。

（資料確認）

○会長　よろしいでしょうか。

それでは、短時間で申し訳ありませんでしたが、両副校長、よろしくお願いいたします。

○前期副校長　それでは、私の担当しております知の創造部と豊かな心育成部、そして、学年では１、２、３年生、前期課程生の最終報告を御説明申し上げます。

着座で説明させていただきます。

まず、４ページです。知の創造部です。本校の教育の３つの柱、知の創造、豊かな心の育成、未来貢献というううちの一つでございますが、知の創造は基本的に生徒の基本的な教育活動を支える部署ですので、まずは授業が生徒の身になるようにということでそれを支援する形で年間活動をしてまいりました。

基本的に授業というのは、先生方が一時間一時間をつくり上げるということで、年間の見通し、そして、６年間の見通しである教育課程の見直しを月１回程度の教科主任会を柱としまして検討してまいりました。また、教科主任会の下には各教科における教科会で意見を集約するという形で、組織的に検討を成してきております。

最終的に本校の卒業生を送り出すに当たりましては、社会に出てから文理の違いなく、

文理融合という形で、それぞれの分野に長けた知性を兼ね備えた人材を育成するということで、そういった人材育成に資する教育課程の編成をしてまいりました。６年生における選択科目を除きまして、本校ではいわゆる文系、理系の違いなく、両方とも体系立って学べるようにということで、次年度以降、新しく編成がなされております。

それと、教育課程の下で行われる一つ一つの授業に関しましては、先生方の資質の伸長も必要でして、そのために、例えば先進校視察の機会を設けるですとか、あるいは外部の予備校における研修、ないしは各教科の研修会、あるいは東京都の教員研修センターで行われております様々な研修に積極的に参加するようにと呼びかけてまいりました。それぞれの先生方が本校に戻り、授業等で還元し、また、教科会で同じ先生同士で共有するというような取組をしてまいりました。

その成果としましては、各授業におきまして、例えば生徒同士が主体的に思考する授業、あるいは思考を表現する授業というふうに、いわゆるコミュニケーション能力を育成するというような授業を各科目で多数行っております。また、単に一方的に発表するというだけではなくて、相手の意見をきちんと聞くといった対話型の授業も成しております。この対話というのは教員対生徒もそうですし、生徒対生徒というものもそうです。このようにしてそれを支えるということで、様々な形で知の創造部が関わってまいりました。

また、先生方が行う授業には、今日的なものとしましてICTの機器が欠かせません。そのICTの機器の例えば物的な環境の整理、あるいはソフト面の整理、あるいは操作等の研修の機会等、様々な物的、ソフト面、そして、人的な側面でも支援をしてまいりました。

具体的に言いますと、一つの例としましては、ICTの機器を扱うに当たりまして、今年度は生成AIのパイロット校に文科省から指定を受けております。生成AIを活用するに当たりましては、生徒には、今年度に関しては本校の４年生を対象に実施したところです。情報の授業において、先に生徒向けに様々なリテラシーの研修を行ったところです。また、それを指導する教員として、本校の全教職員を対象として生成AIの使用に関する研修会というのも行いました。こういった研修会の主催も知の創造部が行ってきたところです。

今後の課題としましては、そういったICT機器は授業では欠かせないツールとなっておりますけれども、このICT機器はすぐに古いものになってしまうということで、機器ですとか、あるいはソフト等の更新は、引き続き区の教育委員会にも様々に御支援いただきながら、よりよいものになっていけばと考えております。

知の創造部に関してはここまでで以上です。

それと、６ページ、豊かな心育成部です。主に生徒の生活面での指導、助言、あるいは支援、そして、学校行事等の運営、これは生徒自治会の生徒を使いながら、動いてもらいながら実施しているところです。

様々な形で、行事の場面では、生徒自治会を中心に委員会の生徒のメンバーがかなり積極的に動いてくれております。特にコロナ禍ではそれがなかなか思うように実施できませんでしたけれども、今年度の体育祭及び九段祭におきましては、久しぶりにかつてのコロ

ナ禍前のように外来の方をお客さんとして招いての実施がかないました。体育祭は保護者のみ、そして、九段祭は保護者及びその他の外来の方を招いての実施が今年度はかなったところです。そういった行事の運営にもかなり生徒たちが自主的に関わっておりますので、そういった支援がこの豊かな心育成部では今年度特にできたのかなと思います。

また、生活面の管理に関しましては、今日の生徒は、例えばSNSの媒体等もかなり私的な場面でも対応しているところですので、そういったある意味本校の中で言うだけではなかなか生活面での規則等が徹底しないところもある中で、引き続き全校集会ですとか学年集会などで機会があるごとにどういった使い方をしなくてはいけないのかといった指導をしてまいりました。

また、学校生活になかなかなじめない、例えば不登校傾向の生徒に関する支援もしてまいりました。まずは毎週拡大の豊かな心育成部会というものを設けまして、各学年の代表、そして、豊かな心育成部の代表はもちろんとしまして、スクールソーシャルワーカーの方にも毎週お越しいただき、また、校内的には特別支援教育専門員の先生も参加し、様々な立場の多くの先生方に関わっていただき、情報共有をしてまいりました。こうしたことを通じまして、個々の生徒の状況に合わせた指導というものもしてまいりました。

それと、豊かな心育成部は管轄するのは部活動もそうでして、部活動に関しては各部活動の顧問の先生が現在中心になって指導しているところですけれども、近年の働き方改革の中で部活動指導の時間数の軽減ができないかというところを検討してまいりまして、週の時間数をきちんと一定の時間数にするようにということを確認してまいりました。

また、外部指導員の方の任用後、校内的な予算で整理しまして、今、部活動の顧問だけでなく、そういった外部の力も借りながら部活動の運営をしていこうというところです。これに関しましては、今後も引き続き負担軽減に向けての検討は重ねていくというところであります。

育成部は以上です。

続きまして、前期課程の学年について説明します。

９ページを御覧ください。第１学年、20回生です。現在の１年生は20回生です。

先ほど校長からの話にもありましたとおり、男女別の募集が今年度から緩和されましたが、男女別の定員で定めた受験による最後の学年ということになります。

この学年は、当然ながら１年生ですので、まずは基本的な生活習慣を身につけさせるというところからスタートしてまいりました。基本的な生活習慣、授業規律、提出物をはじめとした自己管理、こういったところを指導の中心としてやってまいりました。

また、学習面につきましても、とにかく６年間のうちの最初の１年目ということで、最初につまずきのないように、また、もしつまずくようなことがあったらフォローができるようにということで、丁寧な指導をしてまいりました。具体的には、フォローに関しましては、放課後の勉強の機会を外部の支援員を使って行うというようなこともしてまいりました。

また、６年間を見通したキャリア教育に関しましては、１年生では職業人インタビューですとか、あるいは企業訪問などを通じて、早速１年生の段階から将来を見据えた思考のステップを踏むという第１段階を行っております。今年度の１年生は結構積極的な生徒もおりまして、例えば職業人インタビューについては、自分でここの企業に話を聞いてみたいというようなところを探してきて、自分でアポを取ってインタビューを成功させたと。具体的に言いますと、実はJR東日本の東京駅の仕事を聞きたいということで、どうも駅のホームページに投書のような形でこんなことをしたいのだと投稿したところ、きちんと見てくださる方が見てくださって実現したというような、かなりこれから先有望な生徒もおりましたということです。

１年生につきましては、とにかく基礎を固めるというところ、規律や習慣を身につけるといったところを中心に指導してまいりました。

続きまして、10ページ、２学年です。19回生です。

１年間本校で過ごして慣れてきたところですが、気が緩むことなく、規律を正せるように、自己管理ができるようにということで、手帳や学習計画表を活用して、計画的に物事を進めるというような習慣づけに力を注いでいる学年でもあります。先を見通して行うということは、これもやはり繰り返しの指導が必要です。一回言ってというのではなく、何回も何回も節目節目で指導をしているところです。また、学校だけでなく家庭での学習習慣もつくれるように、家庭との連携もありました。

それと、生活面に関しましては、２年生になりますと生徒同士で自治しようという意識が芽生えてきておりまして、率先して委員会活動等に手を挙げるというような生徒たちも増えてきております。近頃、生徒自治会の役員選挙もありましたが、２年生からも多く、立候補し、また、当選しております。

それと、キャリア教育に関しましては、２年生では７月に職場体験を行ってまいりました。千代田区をはじめとした近隣の事業所に御協力をいただきながら、２日間勤め上げたところです。

また、今後の海外等へ目を向けるというところの端緒としまして、大使館訪問も現在実施を計画しているところであります。３月の行事ということで行っていくところであります。

続きまして３学年、11ページです。18回生です。

３学年で大きな動きといいますと、やはりコロナ禍で中止が続いていたオーストラリアの海外研修旅行が今年度ようやく久しぶりに実現ができたというところです。11月に７泊８日を使いまして、オーストラリアに行ってまいりました。

また、これとは別に、海外から本校に生徒を招く、海外の中高生を招くといった行事もコロナ禍以降初めて実現したのですが、今回、３年生がシンガポールから来校した高校生を迎えたところです。中学の３年生に対して、先方が高校生ということで年上、しかも、日本にやってくるようなシンガポールのお子さんたちというのは、現地では本当にエリー

トの生徒さんたちです。そういった生徒さんたちを相手にして、立派に応接をしたというようなこともこの秋口に行われたところです。

また、英語に関しては、授業だけではなくて課外活動としての英語劇、それと、英語のディベート大会にも参加しました。英語劇は12月、都内で代表する学校が集まって英語劇を発表したところ、参加校が少なかったとはいえ、その中で優勝することができました。また、英語のディベート大会に関しましては、都立の中高一貫教育校と連携した事業で、全部で11校あるわけですけれども、その中で本校から代表の４名が参加し、１チームを編成しましたところ、全部参加した中で２位に入賞することができました。

外部に出てのそういった大会で活躍する生徒も多くいるのもこの学年の特徴です。

また、生活面に関しましては、今年度から、後期に入ってからなのですが、前期課程生にスマートフォンの校内利用を認めるというような変更が行われました。利用するといっても、当然ながら教育活動の場面で利用するということではあります。そこで、先ほどもちょっとお話ししたSNS等の活用の指導が非常に必要であるというところですので、ここに関しましては、やはり場面場面に応じて、継続的にスマートフォン等の利用のルールですとか、あるいはリテラシー、あるいはそういったモラルといったものを徹底して指導してまいりました。継続的に行うということで、学年集会をこまめに行うですとか、あるいは学年通信で呼びかけるですとか、ホームルームで呼びかける、指導する、そういった機会を多く設けてまいりました。

キャリア教育に関しましては、先ほどのオーストラリアの海外研修を中心に、いろいろな多様性の下で自分の意見を主張するといったところを総合的な学習の時間等におきまして指導してまいったところです。

ということで、私からは以上であります。

○後期副校長　私も着座にて説明させていただきます。

私からは、未来貢献部、それから、CNV室、SMP部、あと、後期課程生、４年生から６年生まで説明させていただきます。

まず１ページ目、２ページ目の未来貢献部です。

未来貢献部に関しては、生徒のキャリア形成に取り組んでまいりました。後期課程生においては進路説明会を実施し、外部の講師の方も招いて、大学入試に関する情報、または考えておくべき進路の方向性など、生徒に伝えることができました。そのことによって、日々の学習に取り組む動機も強めることができたなと感じております。

今の５年生が４年生のとき、新しい学習指導要領になりまして、来年度、新しい大学入試が始まってまいります。その準備に未来貢献部は今取り組んでいるところです。

今年度の活動として、そういう新しい大学入試の取組も始まることもありまして、模試・学力テスト等の結果については、結果を渡すだけではなく、進路ガイダンスを行い、学年全体で改善点を共有するということも行ってまいりました。

それから、２ページ目なのですけれども、項目４の真ん中のところ、最後のところなの

ですが、「CNV室と業務内容について整理し、次年度に向けて業務分担を進めた」とありますが、CNV室が来年度授業を拡大するということがあります。未来貢献部がやっていたこともCNV室に引き継ぎながら、授業を業務分担をしながらやっていくということがあります。未来貢献部は、進路に特化した取組を来年度行っていきます。CNV室に関しましては、先ほど前期副校長から説明があった生成AIパイロット校としての授業、それから、総合的な学習の時間、探究の時間を使いまして、九段探究プランに関して授業を進めてまいります。

今年度、大学入試に関してなのですけれども、学校推薦型、総合型推薦は結果のほうが出ておりまして、東工大ですとか筑波大、そういった大学に合格したという報告も受けています。私立の大学に関しても結果が出ています。また、国公立に関しては３月６日から３月10日が発表になっております。今後、生徒から学校のほうに合格の報告があり、合格実績に関してもまとめていきたいと思っております。

未来貢献部については以上です。

３ページ目、CNV室です。

CNV室に関しましては、新たな最先端教育プログラムという開発、それから、４、５年生の卒業論文に関して指導してまいりました。

新たな最先端教育プログラムに関しましては、委員会を３回実施し、九段探究プランというものを今年度まとめました。学校のホームページに、トップページの下のほうになるのですけれども、こういった資料を掲載しておりますので、後ほど確認していただければと思っております。

６年間の生徒の自分らしさを発見して、未来をつくっていく探究人というものを生徒に育てていくということで、プログラムを開発しました。次年度、CNV室を中心に総合的な学習の時間、探究の時間、先ほども説明しましたが、実践をしてまいりたいと思っております。

それから、２番目の項目なのですが、SSHの申請を目指していたのですけれども、今年度、DXハイスクールの申請が通りまして、SSHに関してはまた次年度以降取り組んでいけたらということで、今回に関してはSSHの申請は行っておりません。ただ、SSH申請に向けて作成したプログラムに関しては、先ほど説明しましたが、新たな最先端教育プログラムということで来年度実施していきたいと思っております。

CNV室は以上です。

７ページ、SMP部です。

SMP部に関しましては、主に学校の広報活動に力を入れて取り組んでまいりました。学校説明会を積極的に行い、学校見学、それから、個別相談会等を通として、学校の広報活動に積極的に今年度取り組んでまいりました。願書配布会に関しましても、校内見学等を取り入れながら工夫して取り組んできたところです。

今年度の倍率に関しては、実質倍率なのですけれども、Ａ区は1.99倍、区分Ｂに関し

ては4.89倍と項目２の右側に載っておりますが、そのような結果となりました。次年度以降も学校説明会を積極的に展開し、広報活動を行い、より多くの生徒を集めることができればと考えております。

あと、４番目の項目、ホームページを活用した広報活動に関しましても、教科活動の紹介等を動画で掲載したいと。動画コンテンツに関しても、来年度も拡大して行っていければと思っております。

あと、パンフレットに関してなのですけれども、昨年度まではこういった形でパンフレットを作っていたのですが、例年あまり変わりのないような形のパンフレットだったのですが、今年度からはこのような一新するような形で、校長の意見が多く取り入れられながら、新しいパンフレットも作成しました。来年度も内容が充実するようにパンフレット等も作成していきたいと思っております。

SMP部は以上です。

13ページ、４年生です。17回生になります。

前期課程から後期課程、高校生の課程になり、生活面も学習面も少しずつ変化し、生活にも慣れ、学習にも慣れ、充実した１年間になったと思います。

生徒が積極的に学習等にも取り組む姿が見られます。前期課程の学習をベースに、予習、復習等についても教科係が中心になって自主的に進めておりました。

また、卒業後の進路も少しずつ意識し、勉強にも取り組んでおります。本日なのですけれども、学部学科模擬講義ということで５、６時間目に行っております。いろいろな大学から先生、大学の先生を招いて大学の模擬授業を行っております。学習院大学ですとか北里大学といった大学に協力してもらいながら、大学の模擬講義を行っております。

それから、項目の２番目なのですけれども、「多様性のある社会を受け止め」とありますけれども、LGBTQ等の問題に関しても生徒に意識づけをホームルームや学年集会等で呼びかけて、認識を深めることができました。

４学年からは以上です。

続きまして、15ページから16回生、５学年です。

次年度に向けて科目を選択し、自らの希望進路をより明確にしてきました。次年度、６年生では選択科目が授業で中心となるため、自分の進路を担任と保護者と面談を重ねながら固めてきました。

また、２番目の項目、生活面に関しては、九段祭で中心となり活動を行ったり、あと、次年度、体育祭が５月にあるのですけれども、その準備も今進めているところです。

今年度はシンガポール研修旅行に行くことができました。班行動を中心に、ふだんの学校生活では見られないような積極的に取り組む姿とか、企業訪問などに取り組み、充実した活動が展開できたのではないかなと考えております。

３月２日に行われた卒業式にも参列し、６年生になる意識づけができたのではないかなと思っております。来年度、九段中等をしょっていく学年として頑張ってもらえればと考

えております。

第５学年は以上です。

最後、16ページです。第６学年、15回生です。

学習面に関してなのですが、模試を終えるごとに自分の弱点を見つけながら、いろいろな教員と相談しながら勉強に取り組んでまいりました。

先週３月２日、卒業式を終えて、まだ進路が決定していない生徒もいるのですけれども、４月から一人一人よりよいスタートができるように卒業式を終えることができたかなと思っております。

３月22日には、４、５年生に向けて先輩の話を聞く会というものを行います。６年生の生徒が４、５年生に向けて、自分が受験で経験したこと、勉強面で取り組んだほうがいいというようなこととか、受験でこういう成功をしたというようなことを発表するということを行っていきます。

それから、今後なのですけれども、大学等に進学し、また本校に戻ってきて、後輩に学習面等でアドバイス、キャリア面でスタッフとして自主サポーターなどで活躍する生徒もおります。

私からは以上になります。

○会長　ありがとうございました。

ただいま御説明いただきました各分掌学校経営方針実現に向けた取組（最終報告）につきまして、御質問、御意見等をお伺いしたいと思いますが、ボリュームが多かったものですから、最初の未来貢献部から学年に入る前のアイテムから、御質問、御意見等がおありでしたら出していただければと思います。

いかがでしょうか。御質問、御意見はございませんでしょうか。

どうぞ。

○委員　未来貢献部の課題だと考えていることに書いてあるところで質問があります。今年度、推薦入試が成功した生徒が多かったと書いてある一方で、人員削減で次年度はこの辺のフォローアップが今年度ほどできないのではないかという懸念があるということだったのですが、何よりこれ以上先生方の負荷を多くするわけにいかないので、何か対策とかを考えていらっしゃったら教えていただきたいですし、P.A.として役に立てることがあるのだったら、遠慮なく教えていただきたいと思っています。

○後期副校長　CNV室の役割分担の中で、これを作成した後なのですけれども、役割分担をする中で、国公立の推薦等、面接、作文等の指導に関しては未来貢献部が中心となって行っているのですけれども、来年度に関しては学年や副担の先生方、それから、各教科の先生方にも協力いただきながら実施していけたらと思っております。

私からは以上です。

またP.A.のほうももし協力できる場面があったらお伝えしたいと思います。お願いします。

○委員　そうですね。ぜひ遠慮なくお願いします。
○校長　人員削減は、人が減らされたみたいに見えますが、人が減るわけではないので、学年もいますし、ただ、今までは九段自立プランとかそういうプログラムと進路のものと一緒になってぐちゃっとやっていたのですよね。それを整理して、完全に進路に特化してやってほしいということで、未来貢献は来年度は完全に１年から６年までの６年間の進路指導を一本にして、それに対して各学年でどういう進路計画の中で必要な力をつけていくかということをしていくという形にしていますので、面接そのものとかはいろいろ教員全体で当たっていかなければならない部分かなと思います。

総合型の選抜について、今回、国立で10名以上合格者を出しているのです。総合型選抜というのは、要するに昔で言うところの推薦みたいな形になるになるのですけれども、いわゆる探究活動をやったり、そういった探究で自分で研究してきたものを認められて大学に進学していくみたいなところがあるのですけれども、その探究的なものというのを来年度は先ほど言ったように九段自立プランから九段探究プランとしてもっと充実させていくということ。今回、結果の中から、例えば東工大に２人受かったのですけれども、それは総合型なのです。あと、筑波大の医学部にも受かっていますし、そういった生徒がもっと増えてくるのではないかなと。大学側もこの総合型選抜に非常に着目していて、ここで入った生徒が入ってからも優秀だというのが分かってきて、この枠をどんどん広げていっている方向はあります。

そういった意味で、来年度は九段探究プランという形の中で、先ほど冒頭に私も話をしましたけれども、それをもっと充実していくという予定になります。来年度から共通テストで情報が入ってきますので、情報はうちは先進的に取り組んでいるので、来年度も国からの指定は受けていますので、その辺りも充実してくるかなと思います。
○会長　よろしいでしょうか。

どうぞ。
○委員　今回、DXスクールという新しいキーワードが出てきていましたので、そちらのほうに申請をされるということなのですけれども、DXハイスクールというのはどんなもので、どんな育成プランを考えていらっしゃるのか、アウトラインでも教えていただけると助かります。
○指導主事　着座にて説明させていただきます。

もともとSSHというのとDXハイスクールというのは今並列で書いてあるのですけれども、SSHというのはスーパーサイエンスハイスクール、大学、特に理系ですとか、そういったところで大学と連携をしながら、学校、高校生段階で大学の教授にいろいろレポートを見ていただいたり、探究活動を一緒にやるというような支援事業になります。年間約1000万ぐらいの補助金が出るというところです。

それと同様にDXハイスクール、今年度、文科省の追加予算のところで約1,000校の予算が来ています。同じように約1000万ぐらいの予算の中でDX人材、これはDXハイスクール

となっていますけれども、生成AIを活用しながら高校の教育で利活用をうまく検討していくというところであったり、文理融合という言葉を使いますけれども、文理問わずにそういったところの人材、探究人材を育てていくというところで、予算の幅、お金の使い方の幅もSSHに比べて大分柔軟に使えるというものでございます。今回、これを今申請しているというところでございますので、申請の許可が今後下りるであろうということで今準備しているということでございます。

簡単ですが、以上になります。

○委員　成長分野で産業的に支えていく人をつくっていこうというわけでもなく、そういう教育の中にAIとかを活用していく、インフラを整えていく。そんなイメージで捉えてよろしいのでしょうか。

○指導主事　そうですね。

○委員　分かりました。ありがとうございます。

○校長　生成AIは、教育の中と、あとは校務支援業務、両方なのです。校務支援ということで、先生方の働き方改革の一環でもあるのですけれども、そういったものにも活用していくということなのです。

DXについては、例えば情報のⅡを設置しなくてはならないとか、実は結構ハードルが高いので、それに該当する都立高校はほとんどないような状況なのですけれども、本校は設置してはあるので、そういった意味では、割と高い位置でいるかなとは思うのですが、SSHとDX両方の申請は駄目ですよというのは、文部科学省からこちらに直接来たのです。実はSSHの申請をして、校長からのヒアリングの日も全部決まっていたのですけれども、教育委員会に御迷惑をかけながら辞退ということにして、教育DXのほうを主でということにしました。

○委員　ありがとうございました。

○会長　よろしいでしょうか。

では、私から１つ、豊かな心の育成部のほうの話で、部活動の中で顧問の負担軽減とありましたけれども、具体的に外部指導員の活用ですとかそういうお話が載っていらっしゃいますが、そもそも部活動というのは週に平均的には何時間ぐらい活動されていて、どのぐらいの部があって、外部指導員の方というのが半分ぐらいいらっしゃるのか、あるいは７割いらっしゃるのかというのは、どんなイメージでしょうか。細かい数字ではなくても。

○校長　部活動の原則は、平日５日間あるうちで２時間以内で、１日は絶対に休みを取りなさいよということで、要は４日間です。

○会長　４日以下ということ。

○校長　４日以下です。

それから、もう一つは、週休日は２日間あるのですけれども、週休日は３時間以内で、なおかつどちらかは休みなさいよというのが原則なのです。これは働き方改革の中で出てきたのですけれども、私が顧問というか教員だった頃は７日間休まずやっていたのですけ

れども、そういうのは今は一切できなくなっているのですけれども、ということで、ただ、外部指導員は何人ぐらい来ているの。
○前期副校長　正確には立場的に２種類ありまして、部活動指導員という立場の方と外部指導員という方の立場があります。何が違うかといいますと、部活動指導員という立場の方は、学校の教員の顧問と同じく、外部の大会への引率を単独で実施することができます。これはかなり学校の先生にとっては大きな支援になります。教員がつかなくてもその方が言ってくだされば いいと。外部指導員の場合はそれができなくて、教員もついた上で技術的な支援をしてもらうというような立場の方です。
　人数比から言いますと、実は部活動支援員の方は、区のほうから予算の関係もありますので、２名分しかなくて、時間数的にはもっとあったほうがさらに教員の負担は減るのかなといったところです。現状まだ２名分。
○会長　全校で２名ということですか。
○前期副校長　そうです。その２名分の予算を。
○校長　うちだけでしょう。２名というのは本校。
○前期副校長　本校の全部活動に対して２名です。どの部活動も当然その方がいれば助かりますから要望してくるのですけれども、何とかやりくりをして、２名分しかもらっていないのですけれども、時間数を４つの部活動で割り振っているという苦肉の策を取っておりますが、それでもまだほかにお断りした部活動もありまして、そこの支援がもう少しあったらなというのは学校としてはあります。
○会長　分かりました。ありがとうございます。
○前期副校長　部活動の数自体は、運動系と文化系を全部合わせまして26です。
○会長　26あって２名分の枠というのは、ちょっと少ないような感じがしますよね。
○校長　部活動そのものは、東京都の場合には本務になっているのです。だから、教員の仕事として割り振られているのです。これは東京都の独自のものなのですけれども、ですので、本務ですから休日であれば割り当て変更は当然できたり、特別手当を出したりということでかなってはいるのですけれども、前期課程のほうは、特に来年度は外部のいわゆるスポーツクラブとかそういったところにも委託するというような動きで、来年度は本校もそこの枠に入れてもらえる形に教育委員会さんのほうでなっていますので、またいろいろと状況は変わってくるかなと思います。
○会長　前期と後期でやはり扱い方が多少違ってくるわけですね。
○校長　前期課程は基本部活動に教員はついてなくてはいけない。後期課程のほうは、危険な運動のときにはつかなくてはいけないのですけれども、基本的な運動というのは高校生で発達段階的なものですけれども、そこは特についていなくて、けがを伴うような練習内容になってきたときに顧問が行くということで、少し前期と後期では運動のついている指導の内容が違ってきます。
○会長　分かりました。ありがとうございます。

それでは、第１学年から第６学年までの学年ごとのほうの最終報告についての御質問、御意見がありましたらお願いします。

どうぞ。

○委員　質問でも意見でもない感想みたいなものなのですが、私の年からすると、今、こちらでやっている海外研修ですとか、海外からの受入れだとか、企業訪問だとか、インタビューだとか、場合によってはスマホだとか、非常に多種多彩なものを、私の学校時代はただ科目の授業さえ受けていたらそれでおしまいみたいな部分があったけれども、非常に幅広くやられていて、生徒さんが将来の進路を決めるのに非常に役立つのかなと。単なる授業だけではなくて、いろいろ社会的な経験をすることによって将来の進路が見えてくる。そのような御指導をしていらっしゃるのだなという印象を各学年のあれを持ちました。

以上でございます。

○会長　今の御意見について、何か御賛同の意見とかそういうのはございますでしょうか。よろしいですか。

○校長　学習指導要領上もそのような形の中でもどんどん変わってきていて、探究的なものを授業の中でも入れたのです。総合的な探究の時間だけではなくて、授業の中に何とか探究、何とか探究と科目名に探究がついているのです。それで自分の課題を見つけながら、どんどん自分で答えをつかんでいく、出していくみたいなことをあり、体験的なところも重要視しているので、今の生徒は羨ましいといえば羨ましいです。実際にネイティブの先生と直接やり取りをしたり、そういったことも保障されていますので、そういう意味では、いろいろとそれぞれの個々のニーズに合ったものもやっていけるかなと思います。

○会長　どうぞ。

○委員　非常に一生懸命やっていて、私としては本当に先生方もよく頑張っているなと。

例えば九段生が外国人の高校を見学し、また、今回はシンガポールから九段に生徒が来た。九段生は１クラス当たり40名の学級です。ところが、シンガポール派遣した学校の生徒は１クラス30とか、あるいは25とかというクラスだと思うのです。将来的に見て、今、小学校から１クラス当たり、来年５年生が35名学級になるのでしょうか。将来的にここが果たして40でいいのか考えると、もっと先生方がより細かく面倒を見られるのかなと。これは教育委員会のほうにもお願いしたいのですけれども、こんなふうにして努力しながら教育をさせていくということとともに、生徒減ということでより教育を充実させるとなると、先生方の努力をもっと認めてあげるように、生徒数をより少なくしながら、１クラス当たりの生徒あるいは部活動単位の生徒数も少なく、日本が先進的に、特に九段がトップクラスになるためには、少しずつ１クラスの人数を減らしていきながら将来的に努力させていくと、よりもっと効果が上がると今回の報告書を見ながら考えておりますので、そういうところもどうか検討しながら進めていけるといいのかなと私は思っているので、一言感想と意見です。

以上です。

○会長　ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

どうぞ。

○委員　非常に積極的で画期的な取組で、非常にすばらしいなと。我々の頃から比べると、本当に校長先生がおっしゃるように羨ましいと感じる次第です。

これは意見というよりは、どうしたらいいのかな、どう捉えたらいいかなという感想なのですけれども、まず中高一貫の６年間というもののメリットとデメリットというのは多分あると思うのです。要するに、３年間でリセットして高校に進むということができるメリットと、それから、逆に一貫して全部教育がつながっていくというメリットがあって、例えばどこかでドロップアウトするような人にとっては、６年間続くということはちょっとつらい部分もあるかもしれません。そういったものをどうやって救済していくのかなというところです。それから、中だるみをするかもしれない。その中だるみを、例えば３年から４年のところで何かワンクッション、試験を入れるのかとか、やっていらっしゃる部分もあると思うのですけれども、何かされたらいいのかなと感じる部分はあります。

もう一点は、さっきのLGBTQの話と、それから、来年度から今度は男女の区別をつけなくなるということで、これは大学などでも過去に医学部などでもあったのですけれども、やはり女性の比率が増えていったり、今度はロッカーとか、更衣室とか、そういう部屋が現状にマッチしなくなるということはすごくよくあることで、その辺、今後どちらに振れていくのかは分からないですけれども、学年ごとによって男女比も変わるとか、そうなったときの施設の準備というのも多分お考えになっていたほうが将来はいいのかなと思います。でも、時代の流れなので、ぜひ積極的に取り組んでいただくといいかなと思います。

以上です。

○会長　ありがとうございました。

これについては何かありますか。

○校長　不登校の対応については、来年度からそういった支援員を教育委員会で増やしていただきますので、そういった対応ができてくるかなと。今、どちらかというと担任が電話をかけながらどうというような形でやってはいるのですけれども、前期課程のところでは不登校でいたのだけれども、後期課程になると今度は履修の問題があるので、どうしても出てこざるを得なくなって、そこから出てくる生徒もいるのはいるのですよね。行かないから卒業できない、でも、九段に入ったのだから九段で卒業したいという子、いろいろなプレッシャーと言えばプレッシャーなのでしょうけれども、それで出てくる子もいますし、６年間というスパンは非常に長いので、そこで４クラスしかないので、すごく密接な人間関係が出来上がっているので、そういった中で、状況によっては後期課程は受けにいきますという生徒もいますけれども、今、外に出ていく生徒は大体通信が多いです。通信の学校で出ていく子たちが多い。これはここに限ったものではなくて、通常の中学校から高校に進学するときに、都立に行くか、私立に行くかだけではなくて、そこに通信に行く

かということで、通信に行く人間は相当多いのです。一番代表的なのはドワンゴ、Ｎ校というのですけれども、Ｎ校は相当大きくなっていて、１条校ではないのですが、Ｎ校も中学校をつくっていますので、そこは要するに本当のちゃんとした中学校の通信がついていますので、義務教育の中学校を出たということにはならないので難しいのですけれども、そこにフリースクール的に行っている子たちもいるのはいます。そこが非常に大きくなっているというのは確かです。

○会長　では、まだまだ御意見等はあろうかと思いますが、以上でこの学校経営方針実現に向けた取組の報告についての質疑は終了したいと思います。ありがとうございました。

続いて、令和６年度の学校経営診断アンケートの実施結果というのが資料２として配付されております。これについて若干２～３分目を通していただいて、その後に後期副校長のほうから御説明をいただきたいと思いますので、少し目を通してください。

（資料確認）

○会長　それでは、御説明をお願いいたします。

○後期副校長　よろしくお願いします。

今、資料を確認していただいたとおりなのですが、全ての評価項目に関して委員の皆様から肯定的な意見をいただいております。

今年度に関しては、令和４年度と令和５年度、２年間の変位についても確認できるようになっております。

今年度に関しましては、十分に取り組めているという評価が昨年度よりも多く見受けられます。学校経営方針に基づいて、先生方の取組、あと、最先端教育プログラム等の活動を委員の先生方に評価していただいたのではないかなと感じております。

７ページなのですが、その他のところ、学校経営全般に関する意見、感想等を読ませていただきます。

様々な取組に対しての職員の皆様の御尽力に敬意を表します。

教職員の皆様の御尽力にはいつも感心しています。負担が過大にならぬよう、労働環境への配慮をお願いしたいと思います。

コロナパンデミックの影響、制約が３年以上も続く中、主役は生徒を貫き工夫を加えて授業されてきたことに感謝します。また、本校のアイデンティティーである伝統行事や海外研修の継承にも努力しておられ評価する。

①2023年に行われた至大荘行事は４年ぶりに開催され、事故なく無事に終了しました。御準備など御苦労があったと存じます。コロナ禍での日程のため、従来の４泊５日、男女合同から、２泊３日、男女別となりましたが、訓練内容がどうしても日程制限から縮小となっていました。2024年度については、ぜひ４泊５日を前提に御検討をお願いいたします。同窓会としても最大限協力いたします。

②グローバル化、STEAMの教育体系などに取り組まれていますが、同窓会・卒業生に実社会で経験豊富な人材がおります。先輩・後輩のネットワークづくり、シニア層の知見も

取り入れていただくべく、委員会への参画など協力してまいりたいと存じます。

③2023年12月３日の青少年センターで現役生、卒業生合同で東京校歌祭に参加しました。総勢44名のうち24名が現役生と、先生の参加をいただき、他の都立高校を圧倒するパフォーマンスを披露できました。来年度も引き続き共同参加できるよう期待しています。

④来年は市立一中から100年を迎えます。記念誌や各種イベントに同窓会としても協力して、現役生を支援しつつ、卒業生としてもともに祝いたいと存じます。協業引き続きよろしくお願いいたします。

最後になりますが、同窓会・卒業生を活用し、教師の負担を軽減して、生徒を信頼しながら、ゆとりある接し方で伸び伸びと学校生活を送ってもらいたいとお祈りしています。

学校と先生方の御尽力に心より感謝申し上げます。P.A.として少しでもお役に立てることがございましたら、遠慮なく申しつけくださいませ。

教職員の皆さんの御尽力を深く感謝しております。

貴校教職員の尽力には頭が下がります。教職員の心のケアについても多少不安なところですが、教員数をもう少し増員して教員一人一人の持ち時数を１時間でも減少することで、教職員に多少の余裕を持たせたいというような御意見をいただきました。ありがとうございました。引き続き来年度もよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

〇会長　ありがとうございました。

それでは、ただいま御説明いただきましたアンケート結果に関して、御意見、御質問等がありましたらお願いいたします。

どうぞ。

〇委員　３ページ目の３「『鍛える』豊かな人間性の育成」に関する取組について、私は外部委員、経営評議会の委員として、この項目についてどんなふうにして評価しようかというのが非常に難しいところで、外から見えない。内にいないと見えないので、令和４年度に比べて令和５年度は十分取り組めているというのは下がっているのかなと私は見ております。

それから、もう一つは４ページの３番のところです。経営評議会委員の評価で、部、学年、教科及び委員会がそれぞれの所掌事務や役割を確実に遂行するとともに云々ということがあるのですけれども、連携・協働を密というのはやはり外から見えない。だから、ここは見えないので、恐らく例年同じような評価が出てきているのかなと思う。例えば３ページとか４ページの項目について外から見えるためには、質問を工夫するとか、あるいは千代田区教育委員会からこういうことについて要望してくださいということで学校として作っているのかどうかというのがあるのでしょうか。私たちは評議員は、外から見える、あるいは学校を訪問していろいろ見えるというようなことを前提に項目を少し工夫していただけると、具体性が出てくるのかなと思いますので、できたら次年度に向けて工夫していただけるとありがたいなと思っています。

以上です。
○会長　よろしいでしょうか。
どうぞ。
○委員　私も、今の先生のとほぼ同じなのですが、２ページ目ですが、１番の『学ぶ』とか、キャリア教育とかを実際にやったとか、学ぶというのは勉強させるとかは分かりやすいのですけれども、前回の評議会でも申し上げましたが、レジリエンスと言って粘り強いとか鍛えるとか、それが結構今は評価されている時代なのに、それをどうやって見たらいいかというのは先生の全くおっしゃるとおりだと思いますので、何か分かりやすい指標というか質問にされれば、随分変わってくるのではないかなと。
それだけでございます。失礼しました。
○後期副校長　評価方法についてはまた検討いたします。ありがとうございます。
○校長　経年があるからね。でも、今年度から学力も観点が変わりましたので、思考判断とか、知識理解とか、あと、豊かな人間性、学習に向かう力というのが学力の観点項目に入ったので、評価の仕方も学校も工夫してはいるのですけれども、こういったところでも反映していかないといけないですね。
○会長　どうぞ。
○委員　ほかの委員会に出たときもやはりこういうアンケートが最後に必ずあったのですけれども、例えば一ツ橋とか麹町とかでも同じようなアンケートを出していらっしゃるのですか。
○指導主事　分かる範囲でお話しすると、アンケート項目については学校独自にお任せしているかと思います。ただ、こういう会議体、地域だったり、OBだったり、皆さん方に御協議いただくという形で、ここは学校経営評議会という形になっていますけれども、学文協という名前だったかと思いますけれども、そういった形では実施しています。ただ、アンケートは定点評価する上でどうしても必要だという判断が例年ありますので、この形の流れは一般的かなと思います。
○委員　前に何か質問したことがあって、全然違う件なのですけれども、それに答えてほしかったのですが、それはさておきという感じでアンケートを聞かれたことがあるのです。たまたまその管轄しているところの委員だったので、こうやって集計したのが出されているのかなと思って、本当はよくするために使っているのだろうに、区民として答えてほしいことは適当に流されて、アンケートでいいように持っていきたいのかなというのがあったものですから、こちらがそうだという意味では全然ないのですけれども、ほかの中学校とかでもどういうふうに活用していらっしゃるのかなというのが興味があったものですから。
○指導主事　教育委員会は学部長も関わっておりますので、そういうアンケートを前提とした会議にならないように会の運営というところはこちらでも共有しておきます。ありがとうございます。

○校長　都立の場合には学校運営連絡協議会というのがあって、メンバーが決まっているのですけれども、その中でなおかつ評議員というのがあって、その評議員の方々で評価項目をどうする、どうすると全部決めていくのです。それに対して、保護者のアンケート、生徒のアンケート、教員のアンケート、評議員のアンケートと全部聞く。そこで保護者の教員、あるいは生徒と教員の評価がすごく違っているところに焦点を当てて、これは何で違うのだろうというのをやったりはしております。ここはやっていないですけれども。

特に、教員はすごくやっている、できていると思っているのに、保護者の方から見ると全然やっていないと。どうしてもギャップのある項目は幾つか出てくるのです。やはりそこをちゃんと見ていかないといけないのだろうなとは思うのですけれどもね。

○会長　それでは、ありがとうございました。

今の御質問、御意見等、私も見た限りでは、総合的に見て、令和４年度に比べて令和５年度は評価が高くなっていると見えていますので、きっと多少の忖度が毎年あったとしても、令和５年度は令和４年度に比べて向上している、よくなっているという評価なのではないかなと思います。

先ほど両委員からお話がありましたように、アンケートの質問項目あるいは質問の仕方ですか。そういうことについてぜひ御検討いただいて、反映していただけるとありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして、最後の議題になりますが、その他の項目になります。

事務局から、あるいは学校から、その他の項目で何かございますでしょうか。

○校長　それでは、その他の感想等というところに書いてあるのですけれども、100周年になるのが今年なのです。式典については、九段は再来年度が20周年なのです。なので、創立20周年のところで100周年を抱き合わせてやるのか、１年前、つまりは再来年度のところに抱き合わせていくのか、そこは考えておかないといけないかなと思うのです。20周年で式典をやるのが本来、その式典については１年後ろでやってもいいし、前で大体やってもいいのですけれども、そうすると、前でやると100年と20年の間にできるのですけれども、準備とかいろいろなことがあるので、そこをどうするかという問題があります。

100周年は実はでかくて、内容とかいろいろなことを膨大に考えていかなくてはならないのと、私は前任校でちょうど100周年をやってこちらに来たのですけれども、まだ100年だなと思いながら、その前、一番最初に校長をやったときも定時制100周年だったのです。100年、100年ばかり来ているので、いろいろと大変なところなのですけれども、それも大事にしていきたいなと思いますので、その辺りについてはまた同窓会とかP.A.の方々に御協力いただく必要があるなと思います。

100周年というのは、すごく分厚い冊子を作るのですよね。今までの１年から100年までの間と、１年から20年の間のそういったものを学校として作らなくてはいけないかなというのがあるので、いろいろ御協力をお願いしたいと思います。

千代田区はホールがないのですよね。100周年とかをやる、要するに式典をやったりす

るのに、全校生徒が参加して、OBも参加して、P.A.の方も参加するとなると、体育館だと無理なのですよ。それで、武道館でやれればいいのですけれども、何千人と。
○会長　武道館はすばらしいですね。
○校長　その予算とかというのもあるので、千代田区はなかなかそういったホールはないですよね。あればいいのですけれども、なかなかないのですよね。
　前の学校のときに中野のゼロホールを使ってやれたので、あそこは千何人入りましたので、そういった悩ましい部分があります。
○会長　大変ですね。区のほうにも貯金をしておいていただいて。
○校長　武道館もすごく高くなったのですよね。
○会長　ありがとうございます。
　20周年、100周年ということで記念すべきことだと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。
　あと、室長のほうからございますか。
○経営企画室長　私のほうからは、今年度はこれで終わりということで、来年度の学校経営評議会につきましては、また開催日、日程等につきましては改めて会長と調整させていただいて決めさせていただきたいと存じます。
　以上でございます。
○会長　委員の任期は２年間なので、このまま引き続きということなのですね。
○経営企画室長　このままです。７年の６月末まで、来年の６月末までですね。
○会長　そうすると、あとは日程だけと。
○経営企画室長　そうです。
○会長　分かりました。ありがとうございます。
　それでは、ほかによろしければ、来年度の評議会の開催日程につきましては事務局と調整させていただいて、改めて皆様に御連絡をさせていただきたいと思います。
　最後に触れておきたい、あるいは御発言が何かございますでしょうか。
　よろしければ、以上で第３回の「学校経営評議会」を閉会といたします。
　皆様の御協力で、ほぼ時間どおりに進行することができました。本当に御協力ありがとうございました。
　それでは、これで閉会ということでよろしいでしょうか。ありがとうございました。